



石川メリヤスの一日

約150台の自動編み機でニット小物を生産している石川メリヤス。人間と機械が一体となって、「使う人のためのものづくり」を心がけています。作業用手袋の生産を中心に、ニット工場の日を写真でご紹介します。

4:30 先代社長が工場へ



工場の2階に自宅がある先代社長の石川君夫が起床してすぐに工場へ。24時間稼働の機械が糸切れなどで止まっている場合は直して再稼働。積み上がった製品は揃えます。

7:00 早番の社員が出勤



夜に止めていた機械の電源を入れて、前日の続きから編立作業を再開。機械の調子上げるには時間がかかるので、みんなが来る前に動かしておくとも一日がスムーズに進みます。

9:30 内職さん担当の社員が戻る



作業用手袋の手首を縫うなどの後工程をやってくれるのは近所の内職さんたちです。担当社員が製品を車で届け、工程が終わった製品を回収していったん工場に戻ります。「4人でそれぞれ20軒ほどの内職さんを担当しています。午前中に2往復、午後2往復ぐらいます」。

9:00 原料の出し入れ

運送会社の方が原料の糸を



持って来てくれます。

8:30 生産指図書を作成

顧客からの注文を工場に伝える「生産指図書」は事務所で作っています。「納期の管理が大変で、梱包や出荷の作業にも参加します」

8:00 全員出勤して各自の持ち場へ



毎朝、すべての機械に潤滑油をさします。編み立てる製品の編成データを機械に入れて調整し、針が折れたなどの軽い故障はそのつど修理します。原料の糸を補充し、製品を揃え、袋に入れて後工程に渡す作業など社員みんなで分担して進めます。



9:45 手袋の傷直し

内職さんから指摘された傷のある手袋は検品・梱包班が職人技で手早く直します。「昼までには直しの作業を終わらせて、午後はみんなと一緒に梱包作業をやっています」。



10:00 各自のタイミングで休憩

石川メリヤスでは午前と午後15分間の休憩があります。10時以降には、作業の切りのいいタイミングで各自が休憩してリフレッシュします。



12:00 昼休憩

お昼休みは好きな場所で過ごします。食堂もありますが、自宅に戻って食事と家事をする社員も珍しくありません。

13:00 製品を倉庫へ

午後の動き方は基本的に午前と同じです。すぐに出荷しない製品は倉庫に持って行き、出荷する製品を倉庫から出します。



14:00 製品を出荷する

作業用手袋は金属探知機を通してから出荷単位で梱包します。運送会社の方が来てくれる前に作業。みんな素早く動きまわります。



17:00 全員退勤



残業はめったにない石川メリヤス。17時になるとみんな帰っていきます。

18:00 選番の社員が仕事を続ける

工場には2時間だけ残業する選番の社員がいます。日替わりで担当して機械を動かします。

